

# 令和7年度生物多様性 認知度調査結果

# 1 実施期間

令和7年10月14日～令和7年11月30日

# 2 調査方法

- ① 宮城県自然保護課HPへの掲載
- ② (新規) 宮城県防災アプリ「ポケットサイン」アンケート機能  
(前年度まではHP掲載、「生物多様性マップ」掲載27施設及び県職員対象によるアンケート)

# 3 サンプル数

計：1, 836件

→前年度（152件）より大幅に回答数が増加

→回答者の層の拡大で、前年度の結果と傾向が大幅に変化

## 4 アンケート項目

- Q1 御年齢、お住まいの市町村、御職業について教えてください。
- Q2 「生物多様性」という言葉を知っていますか？
- Q3 「生物多様性」という言葉から何を思い浮かべますか？
- Q4 「ネイチャーポジティブ」という言葉を知っていますか？
- Q5 自分が住んでいる地域の「生物多様性」が減少することによってどのような影響があると思いますか？
- Q6 自分が住んでいる地域の「生物多様性」が近年どう変化していると思いますか？
- Q7 豊かな自然のために、普段の生活で実践していること、これから行いたいと思うことはありますか？
- Q8 「生物多様性」について御自由に御記入ください。

## 5 結果概要

### ○ 生物多様性について

- ・ 29.2%が「言葉の意味を知っている」と回答。（R6年度調査より 50.4ポイント減少）
- ・ 「言葉を聞いたことがある」とあわせて75.5%（R6年度調査より 21.2ポイント減少）
- ・ 52.7%が「住んでいる地域の生物多様性が低下」したと回答。（R6年度調査と同程度）

### ○ ネイチャーポジティブについて

- ・ 6.9%が「言葉の意味を知っている」と回答。（R6年度調査より 18.7ポイント減少）
- ・ 「聞いたことがある」を合わせ32.2%となった。（R6年度調査より 11.8ポイント減少）

→ 認知度が大きく減少したことについて、回答者の層の拡大によることが要因と考えられる。

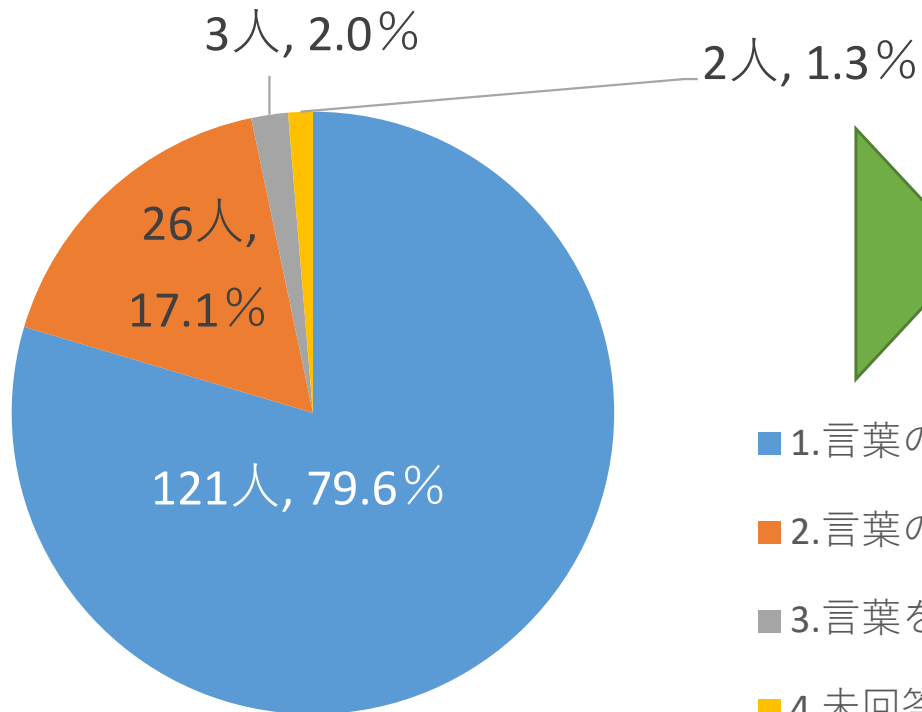
### ○ 実践していること、これから行いたい行動について

- ・ 5割以上が「地元のものを食べること」「ゴミを減らすこと」を実践。
- ・ 「生物多様性に配慮した農林水産物を買うこと」を実践している県民は少ないが、今後取り組みたいと考える県民の割合は比較的多い。

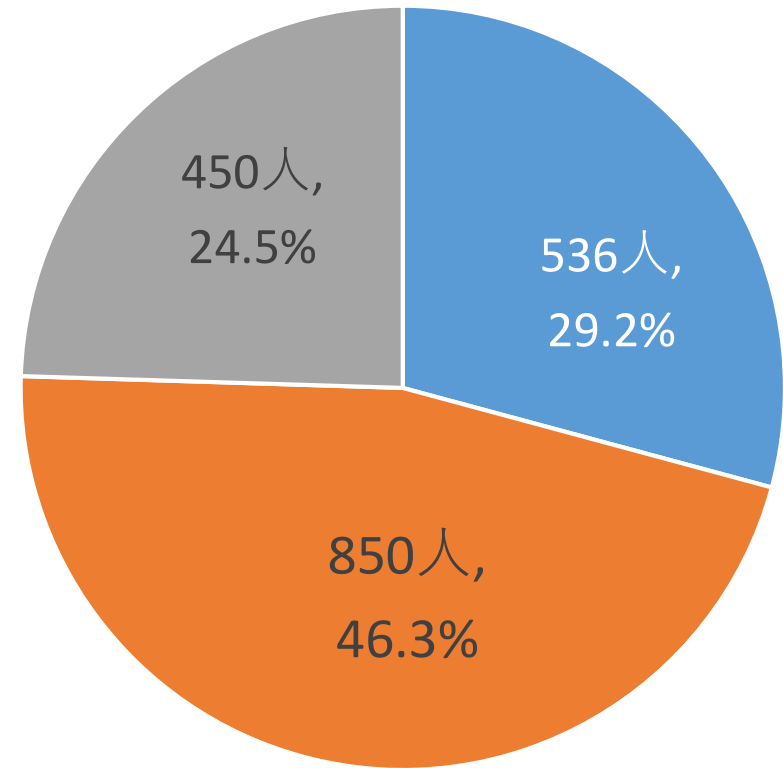
# Q2.生物多様性認知度

- 「言葉の意味を知っている」と回答した人の割合は**29.2%** (R6年度調査79.6%)
- 「言葉を聞いたことがない」と回答した人の割合は**24.5%** (R6年度調査2.0%)

R6年度結果

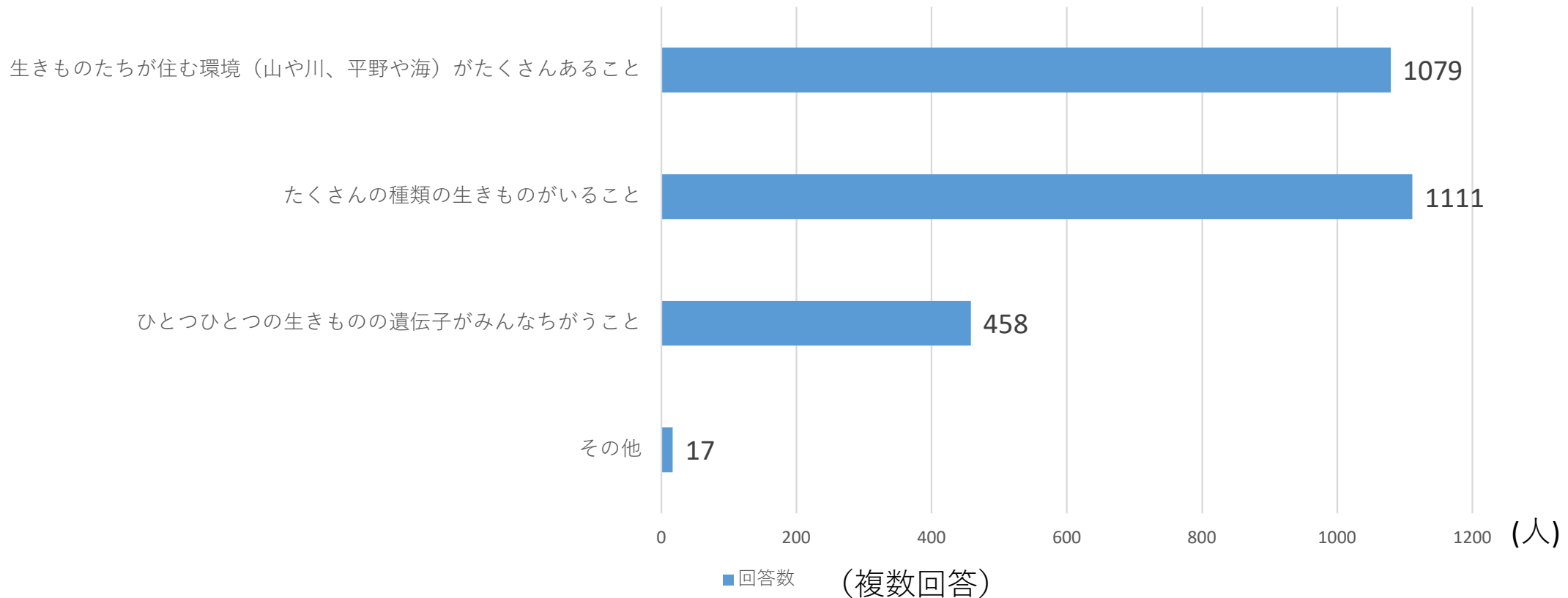


R7年度結果



- 1.言葉の意味を知っている
- 2.言葉の意味を知らないが、言葉を聞いたことがある
- 3.言葉を聞いたことがない (知らない)
- 4.未回答

# Q3. 「生物多様性」という言葉から 何を思い浮かべるか

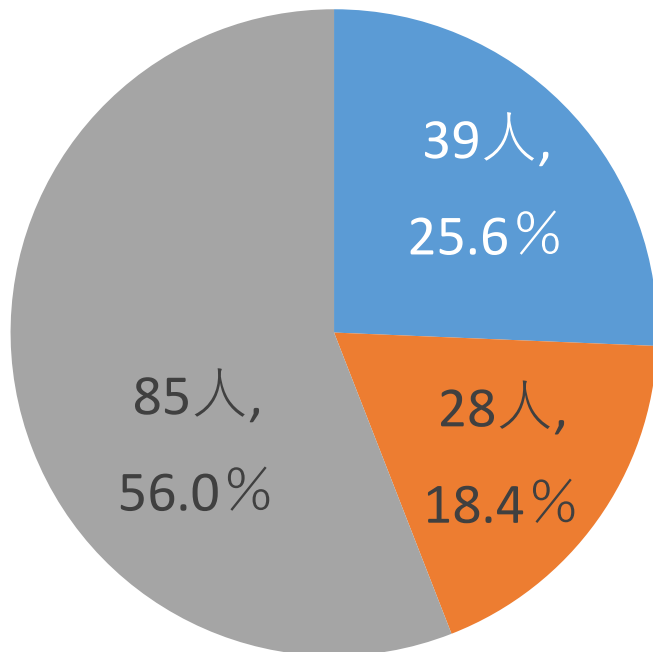


- 生物多様性のイメージについては、「種の多様性 > 生態系の多様性 > 遺伝子の多様性」の順に強くなっており、昨年度の傾向と大きな差異はみられなかった。

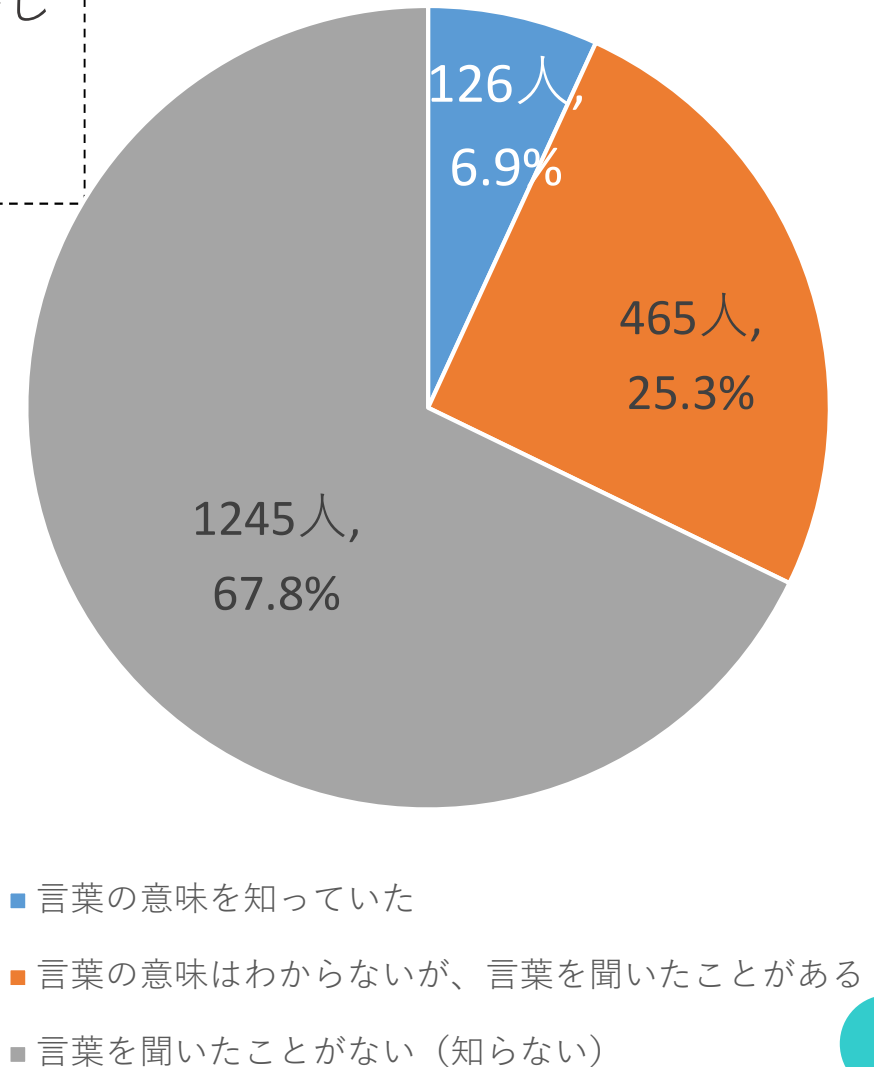
# Q4.ネイチャーポジティブ認知度

- 「言葉の意味を知っている」と回答した人の割合は6.9%と大幅に減少。(R6: 25.6%)
- 「言葉を聞いたことがない(知らない)」と回答した人の割合は67.8%と増加した。(R6: 56.0%)

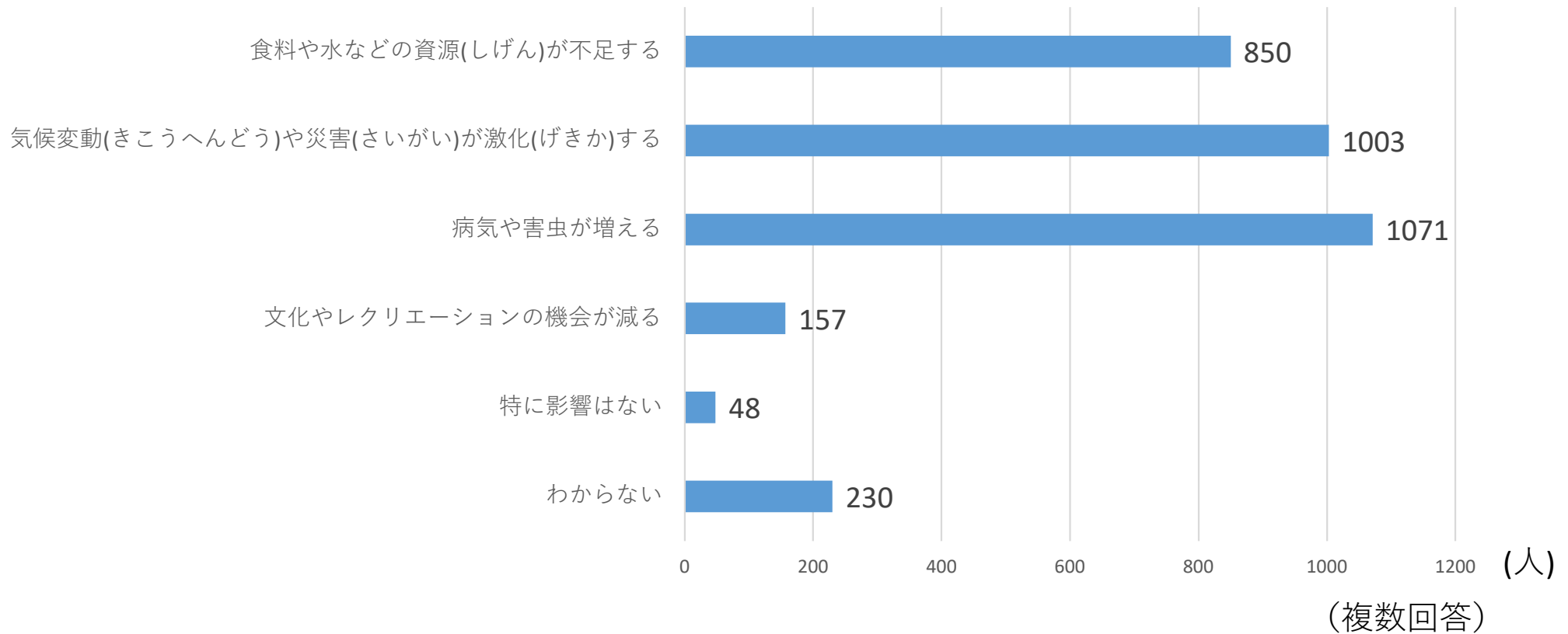
R6年度結果



R7年度結果



# Q5. 「生物多様性」が減少することで どのような影響があると思うか

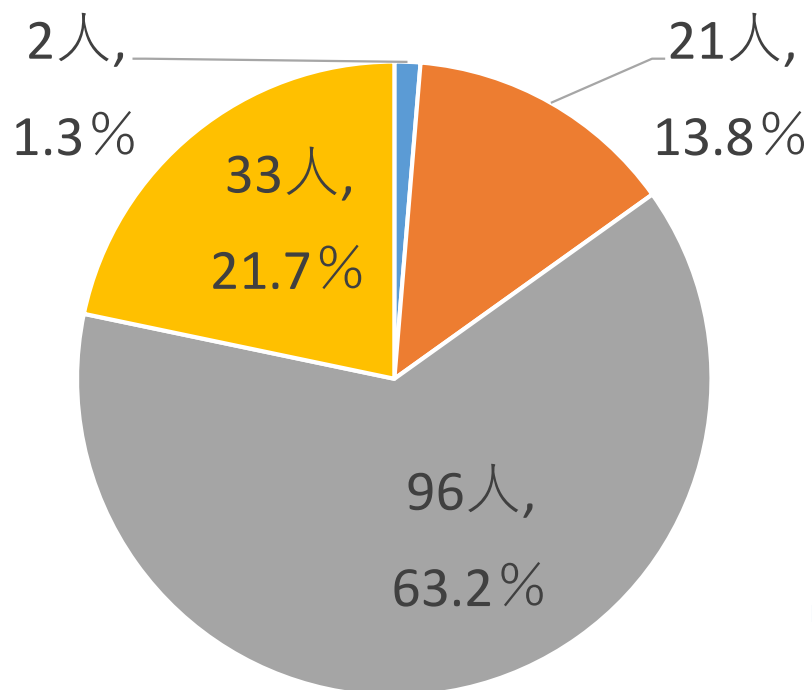


- 「病気や害虫が増える」が一番多くなっている。(R6と変化なし)
- 「気候変動や災害が激化する」が2番目に多くなった。(R6:3番目)
- 「文化やレクリエーションの機会が減る」「特に影響はない」は少ない傾向。(R6と変化なし)

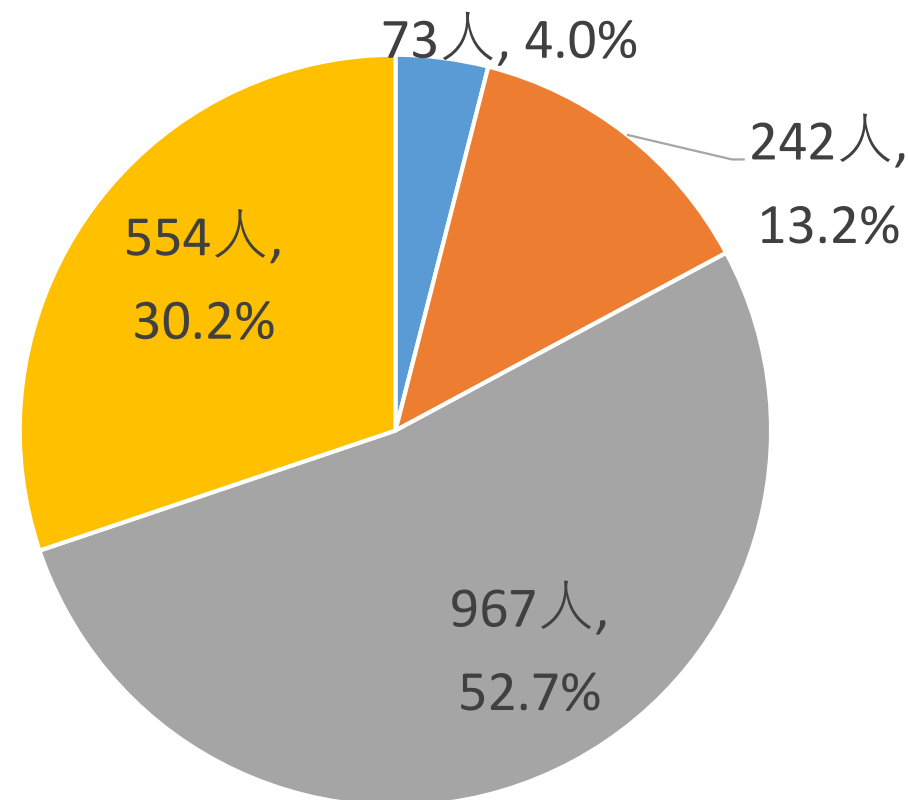
# Q6.地域の「生物多様性」が近年どう 変化していると思うか

- 52.7%が住んでいる地域の「生物多様性」が低下していると回答。
- 昨年度から全体的な傾向に大きな変化はみられなかった。

R6年度結果

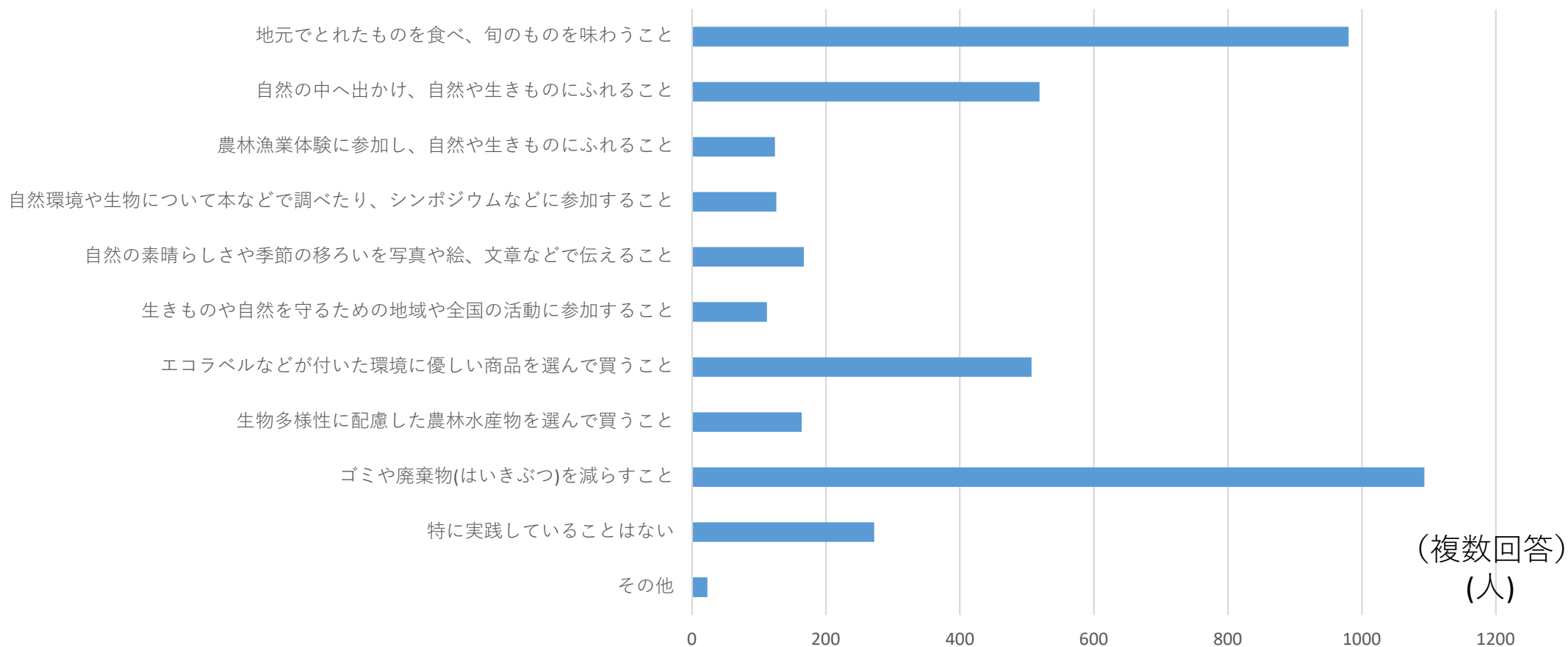


R7年度結果



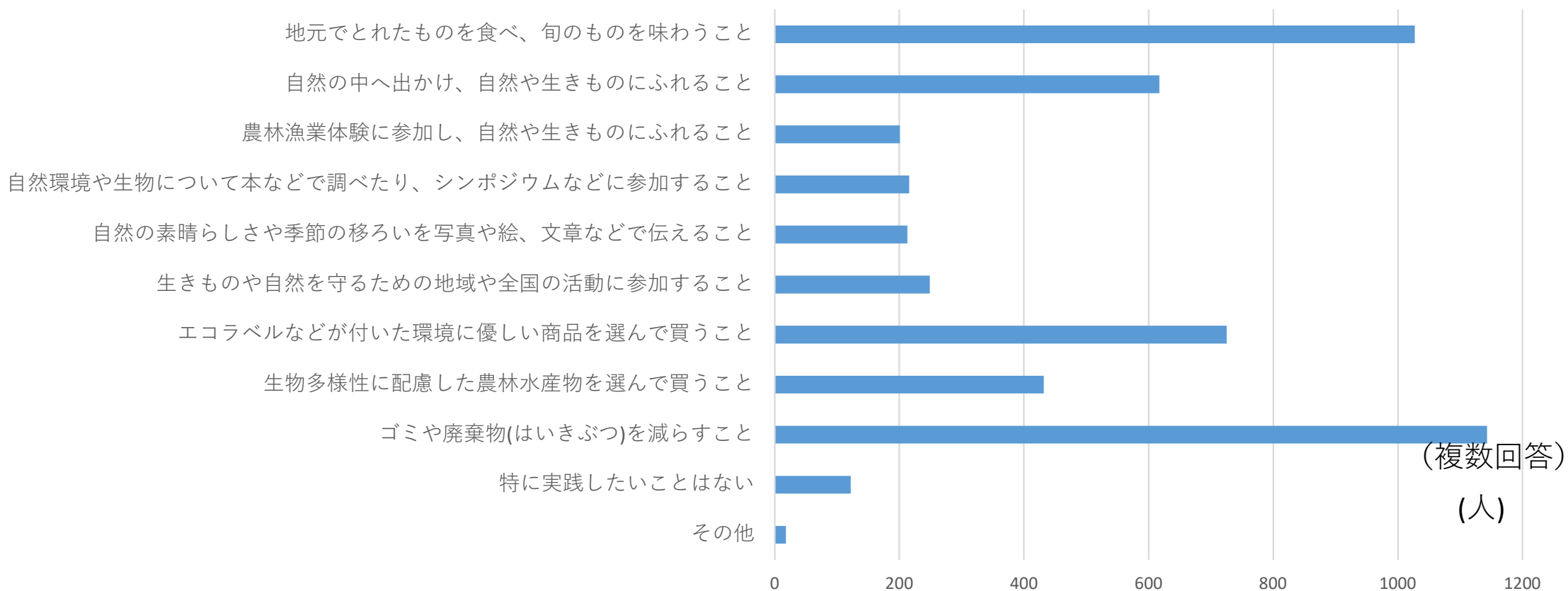
■ 向上している ■ 変わらない ■ 低下している ■ わからない

# Q7-1. 普段の生活の中で実践していること



- 昨年度と同様に「ふれること」「味わうこと」や、前年度追加した「ゴミや廃棄物を減らす」など、比較的取り組みやすいもの、わかり易いものの回答数が多い。
- 「生物多様性に配慮した農林水産物」や「本などで調べたりシンポジウムなどに参加」は、回答割合が低く、取組のハードルが高い可能性がある。

# Q7-2.これから行いたいと思う行動



- これから行いたい行動としては、普段の生活で実践していることと同様の傾向が見られる。
- 「エコラベルなどが付いて環境にやさしい商品を選んで買うこと」や、「生物多様性に配慮した農林水産物を選んで買うこと」については、普段の生活で行っていることよりも高い傾向が見られる。

# Q8.自由意見

カテゴリ	件数	構成比	主な意見の要約
生物多様性の変化	58件	18.6%	身近な動植物（昆虫、野草等）の減少、外来種の増加、開発による自然環境の喪失に対する危機感。
行政の取組への要望	33件	10.6%	環境教育の充実、広報活動の強化、アンケートのアクセシビリティ改善（QRコード等）、実効性のある規制を求める声。
クマに関する意見	36件	11.5%	クマの出没と人的被害への不安。被害が出てからの対応ではなく、事前の対策や情報発信を求める声が多い。
太陽光に関する意見	18件	5.8%	メガソーラー設置に伴う森林伐採や自然破壊に対する強い反対意見。景観や土砂災害リスクを危惧する内容。
気候変動に関する内容	17件	5.5%	地球温暖化による季節感の変化、異常気象への不安、動植物の生態への影響を実感する意見。
その他特徴的な意見	127件	40.8%	個人の日常生活での取り組みや、自然との共存に関する個人的な見解など。
特筆事項なし	71件	22.8%	「特になし」「わからない」などの回答。

## 年代別の特徴（抜粋）

**50代・60代:** 最も回答が活発な層であり、「生物多様性の変化」や「クマ」に対して関心が強い。長年の生活経験から「昔に比べて〇〇がいなくなった」といった具体的な変化を指摘する声が多い。

**30代・40代:** 「県への要望」や「太陽光」への関心が比較的高く、次世代への教育や、情報へのアクセスのしやすさ（URLの併記など）を求める具体的な意見が見られた。